

抄 録

第48回群馬放射線腫瘍研究会抄録集

日 時：平成 25 年 2 月 23 日 (土), 午後 1 時 25 分～午後 5 時 20 分

場 所：群馬大学医学部保健学科 ミレニウムホール

大会長：群馬大学医学部附属病院 看護部 野本 悦子

事務局：群馬大学大学院医学系研究科腫瘍放射線学分野内 群馬放射線腫瘍研究会事務局

共 催：群馬放射線腫瘍研究会, 群馬大学がんプロフェッショナル養成プラン, 群馬放射線治療技術研究会

〈一般演題 看護 1〉

13:30-14:10

座長：加藤 康子 (群馬大医・附属病院・北病棟 6 階)

1. 子宮頸癌腔内照射治療におけるフルニトラゼパム使用の有用性の検討：患者満足度アンケート調査報告

今井香織里, 加藤 康子, 中村 真美

登丸真由美, 今井 裕子

(群馬大医・附属病院・北病棟 6 階)

田巻 倫明, 野田 真永

(群馬大医・医・腫瘍放射線学)

大野 達也 (群馬大学重粒子線医学センター)

【目 的】 子宮頸癌腔内照射を受けた患者の満足度におけるフルニトラゼパム (以下サイレース) 使用の影響を明らかにする。【方 法】 サイレースを使用しなかった患者 11 名・使用した患者 21 名に, 《治療を受けての感想》《治療中の処置》《治療スタッフ》《治療室の環境》について, アンケート調査を実施。【結 果】 「治療用の器具が入る時の痛み」について, 「耐え難い」もしくは「強い」痛みがあったと答えた患者が, 不使用群では 55% (6/11), 使用群では 5% (1/21) であった。また, 「治療中の姿勢」について「全く」もしくは「ほとんど」辛くなかったと答えた患者が, 不使用群では 18% (2/11), 使用群では 67% (14/21) であった。その他の設問では, 両群でほぼ同様の回答であった。【結 語】 サイレースの使用でアプリケーション挿入に伴う疼痛と治療体位の辛さが軽減されたことが示唆された。今後はスタッフ間での情報交換を改善し, 患者に対する精神的援助などで, さらなる患者満足度の向上を図っていく必要があると考える。

2. 子宮癌に対し腔内照射を行う患者へのクリニカルパスを運用して

秋山智恵子, 菱沼 貴生, 金井 和美

(埼玉県立がんセンター看護部)

楳本 智子

(同 放射線科)

【目 的】 腔内照射を受ける患者の不安の軽減や治療への

積極的参加に加え, 他院を含む医師や看護師間での情報共有と統一した看護ケアの提供を目的に, 2010 年にクリニカルパスを作成し運用を開始した。2 年が経過し内容の再検討を行ったので報告する。【対象及び方法】 2010/10～2012/12 までに子宮癌で腔内照射を開始した 103 例。内訳は院内 89 例, 他施設からの依頼 14 例。患者用パスを使用したオリエンテーションの問題点, 医療用パスを用いた医療者間での連携について検討した。【結 果】 全 103 例に対し, 放射線治療部門での看護師の経験年数にかかわらず患者用パスを使用したオリエンテーションが可能であった。医療用パスは治療中・治療後の観察項目を簡便に把握出来るようになっており, 他施設との連携も考え運用している。【結 語】 今後, 自施設および他施設の医師, 看護師, 患者からの意見を取り入れ, 患者用パス・医療用パスの運用について再度検討したいと考えている。

3. 小児の重粒子線治療を経験して

橋本 智美, 北田 陽子, 谷山奈保子

富岡 和代, 今井 裕子

(群馬大学重粒子線医学センター)

【目的と背景】 小児患者の治療は, 発達段階に応じたきめ細かい対応が求められる。当院で初めて経験した小児患者への看護介入について治療段階ごとに振り返り, その内容と今後の課題について検討したのでここに報告する。【対象の紹介】 学童期 女児 胞巣状軟部肉腫術後残存 治療期間: 2011.9～10 月 治療準備は長期休暇中に入院で行ったが, 治療は学校に通いながら行った。【まとめ】 治療を円滑に行うためには, 児の発達段階や嗜好に合わせたプレパレーションが必要である。また児の生活リズムに合わせて看護介入していくことで, 学校生活と通院 (治療を含む) の両立が可能になる。【今後の課題】 発達段階の異なる小児患者に柔軟に対応するには, 治療スタッフ間の密な協働だけでなく, 小児科や麻酔科なども含めた多職種による集学的治療体制の整備が必要になる。また今後の社会生活を見据えた, 長期的なサポート体制の確保も求められる。